

耐性菌検定の結果

対象病害	成分名	薬剤名	実施年度		判定濃度	供試菌株数	耐性菌株率	調査ほ場数	耐性菌発生 ほ場率
					(ppm)		(%)		(%)
コムギ赤かび病	チオファネートメチル	トップジンM	2019	生育阻止濃度	100	8	0	4	0
	プロピコナゾール	チルト	2019	生育阻止濃度	100	8	0	4	0
ダイズ紫斑病	アゾキシストロピン	アミスター	2018	生育阻止濃度	100	87	32.2	20	65
カンキツ灰色かび病	クレソキシムメチル	ストロビー	2012	生育阻止濃度	100	57	1.8	10	0
	フルアジナム	フロンスайд	2012	生育阻止濃度	1	57	0	10	0
カンキツ緑かび病	チオファネートメチル	トップジンM	2017	生育阻止濃度	10	62	40.3	10	50.0
カンキツ青かび病	チオファネートメチル	トップジンM	2017	生育阻止濃度	10	3	100	3	100
ナシ黒星病	ベノミル	ベンレート	2015	生育阻止濃度	100	84	100	28	100
	フェナリモル	ルビゲン	2015	50%生育阻止濃度	1	103	17.5	28	39.3
			2020	50%生育阻止濃度	1	36	22.2	7	42.9
クレソキシムメチル	ストロビー	2018	生育阻止濃度	100	50	26.0	4	75.0	
ナシ黒斑病	ジフェノコナゾール	スコア	2018	50%生育阻止濃度	1	50	0	4	0
			2025	50%生育阻止濃度	1	30	3.3	5	20.0
ブドウ晩腐病	テブコナゾール	オンリーワン	2024	生育阻止濃度	100	20	0	1	-
	ベンチオピラド	フルーツセイバー	2024	生育阻止濃度	100	20	5.0	1	-
	クレソキシムメチル	ストロビー	2024	生育阻止濃度	100	20	0	1	-
	フルジオキシニル	セイビアー	2024	生育阻止濃度	100	20	0	1	-
イチゴ炭疽病	ジエトフェンカルブ	ゲッターの一成分	2011	生育阻止濃度	100	87	2.3	15	13.3
			2023	生育阻止濃度	10	60	18.3 ^a	7	71.4
	ベノミル	ベンレート	2011	生育阻止濃度	100	87	97.7	15	100
			2023	生育阻止濃度	10	60	51.7 ^a	7	71.4
	ジエトフェンカルブ・ベノミル	-	2023	生育阻止濃度	10	60	30.0 ^a	7	28.6
	アゾキシストロピン	アミスター	2023	生育阻止濃度	100	60	0	7	0
ビリベンカルブ	ファンタジスタ	2023	生育阻止濃度	100	60	0	7	0	
イチゴ灰色かび病	ベンチオピラド	アフエット	2014	生育阻止濃度	1	31	3.2	6	16.7
			2020	生育阻止濃度	1	53	39.6	14	57.1
イチゴうどんこ病	トリフルミゾール	トリフミン	2022	生育阻止濃度	100	2	0	2	0
	シメコナゾール	サンリット	2022	生育阻止濃度	100	2	0	2	0
	アゾキシストロピン	アミスター	2022	生育阻止濃度	100	2	100	2	100
トマト灰色かび病	チオファネートメチル	トップジンM	2019	生育阻止濃度	100	42	100	6	100
	ジエトフェンカルブ	ゲッターの一成分	2020	生育阻止濃度	10	42	2.4	6	16.7
			2022	生育阻止濃度	0.3※	98	96.9	4	100
				生育阻止濃度	10※	98	0	4	0
	プロシミドン	スミレックス	2019	生育阻止濃度	5	42	76.2	6	100
	アゾキシストロピン	アミスター	2019	生育阻止濃度	100	42	97.6	6	100
2022			生育阻止濃度	100	98	80.6	4	75.0	
メバニピリム	フルピカ	2019	生育阻止濃度	3	42	2.4	6	16.7	
ベンチオピラド	アフエット	2019	生育阻止濃度	1	42	0	6	0	
		2022	生育阻止濃度	1	88	47.7	4	75.0	
ボスカリド	カンタス	2022	生育阻止濃度	1	88	95.5	4	75.0	
フルジオキシニル	セイビアー		2022	生育阻止濃度	0.2	98	0	4	0
			生育阻止濃度	1	98	0	4	0	

判定濃度 (ppm) の有効成分を含む培地上で、生育したもの、または、50%以上の生育阻害が認められなかったものを耐性菌とした。

a それぞれ、ジエトフェンカルブのみに耐性、ベノミルのみに耐性、両剤に耐性

※ジエトフェンカルブの成分濃度